

『インド州別データを用いた
経済成長の収束と人的資本の役割に関する一考察』

青山学院大学大学院 経済学研究科 公共・地域マネジメント専攻
博士後期課程 佐藤惣哉

2015年1月23日

要旨

本稿では新古典派経済成長モデルを用い、1991年の自由化以降高い経済成長率を維持するインドを対象に、2001年から2011年までの期間において経済成長の収束が確認できるかどうかについて実証分析を行った。さらに、人的資本の代理変数として教育の質を考慮した場合、経済成長の収束に変化が見られるかどうかについて検証を行った。

本稿で得られた結果としては以下の通りである。まず、インド全体を対象にした推計結果では、人的資本の蓄積を考慮しない場合、人的資本の代理変数として教育の質を考慮した場合のいずれにおいても経済成長の収束を確認することはできなかった。次に北インド地域を対象とした推計においても、人的資本の蓄積を考慮しない場合は経済成長の収束を確認できなかったが、人的資本の代理変数として中等教育就学者の割合を考慮した場合、有意性は低いながら経済成長の収束を確認することができた。

Keywords: インド、新古典派経済成長、収束(convergence)、人的資本

JEL classification: O15, O47